

# 幼小一体的な教育課程「生活ひろば」の開発

令和8年度 第4年次

白梅学園大学附属白梅幼稚園

小平市立小平第一小学校

## 1 研究開発課題

幼小移行期において生活の発見と交流を通して問題解決を図り、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力を育み、「探究」を自律的に深化させる、幼小一体的な教育課程の研究開発

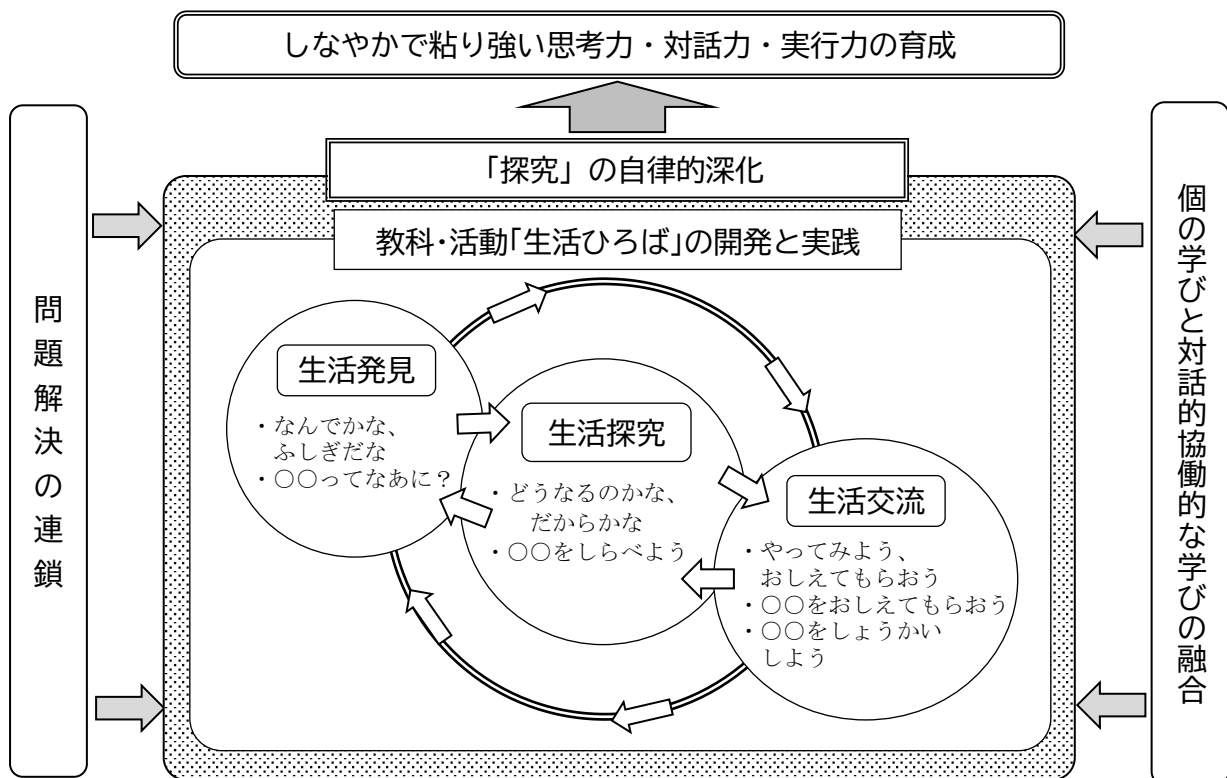


図1 研究の全体図

## 2 幼児教育と小学校教育の連携・接続に関する課題

生活科の創設から30年以上経ち、幼小連携の取組は国公立の園・学校を中心に定着しつつある。現行の幼稚園教育要領や小学校学習指導要領において「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」が示され、幼小の教員で共有し、幼小移行期の教育を充実させることが求められている。幼小間においてカリキュラム連携を具体化、実質化させるために、5歳児から小学1年生までの2年間の架け橋期における『幼保小の架け橋プログラム』が示され、その手引き等が提供されている。一方で、園児による単発的な小学校訪問など形式的な連携にとどまり、本格的な普及が進まない現状がある。

その背景には、全国的に小学校は公立が多数を占め、校区の意識が高いのに対し、幼稚園等は私立の園が多く、校区どころか自治体を超えて園児が通園することがあるだろう。卒園児の進学先はいくつもの小学校に分散する。幼小連携の発達の教育的必要性は理解されていても方途が見つからず、幼小双方ともどの園や学校と連携を行うのか選択し難い。その影響もあり、単発的な交流にとどめたり、園と小学校が別々にアプローチ・カリキュラムやスタート・カリキュラムを策定したままとなったりして、初等教育前半の本格的なカリキュラム連携には至りにくい。

幼小連携の課題としては、幼小間の交流や円滑な接続は目的ではなく手段とその成果であることを改めて認識し、共通の理念と枠組みをもつ幼小一体的な教育課程の開発と実践を通して、学びの発達の移行が進むことを示す必要があるだろう。

## 3 研究の目的と仮説

本研究の目的は、私立の幼稚園と公立の小学校が、地域の人的物的環境を活かして連携し、幼稚園5歳児から小学校2年生の幼小移行期における「探究」の自律的深化に向けて、生活の創造と交流を通して問題解決を図り、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力を育む、幼小一体的な教育課程を開発することである。具体的には以下の4点の目的から成る。（図1参照）

- ①幼稚園5歳児から小学校2年生の3年間における、「探究」を自律的に深化させる、生活経験に基づく幼小一体的なカリキュラムを提案する。「探究」については、子どもの素朴な疑問が「問い」や取組のめあてとなる道筋に向き合い、問題解決を連鎖させ、その過程で個別の学びと対話的協働的な学びを融合させ、子ども自身が学びを自律的に深める活動として捉える。
- ②幼小一体的なカリキュラムとして「生活ひろば」を小学校の教科、幼稚園の活動として導入し、実践と評価を通して、教育上の意義と有効性を明らかにする。
- ③「生活ひろば」において、個の学びと、同学年や異学年の仲間や地域の人々などを交えた対話的協働的な学びとの融合を図る教育方法を提案する。
- ④以上の①～③を通して、子ども自身によって学びがマネジメントされ、探究が自律的に深化し、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力が育まれることを検討する。

以上の目的に基づき、本研究の仮説については、以下の4点を設定した。

### (1) 仮説1 「生活ひろば」教科・活動の導入

幼稚園・小学校の一体的な教育課程として、〈生活発見〉〈生活探究〉〈生活交流〉から構成される教科・活動「生活ひろば」を導入し実践することによって、子ども自身の生活に基づく問題解決を連鎖させ、探究を深化させることができる。

### (2) 仮説2 地域の環境や資源を活用した教育方法の工夫

「生活ひろば」において、幼小間で共有可能な、地域の環境や資源を幼小相互に活用することによって、探究の深まりをらせん的に導くことができる（表1）。

表 1 本研究において活用する地域の環境や資源の例

地域の環境や資源	説明
丸ポスト	小平市内に昔ながらの丸ポストが 37 本あり、都内の自治体で最も多い。
小川用水	小平には玉川上水や小川用水などの水路があり、市民に親しまれている。
小平糰うどん	地粉を用いた小平の代表的な郷土料理で、給食でも提供される。
ぶるべー	小平はブルーベリー栽培発祥の地で、ぶるべーは市のキャラクターである。
西武鉄道	小平には西武鉄道の 4 路線が走る。車両や特急などに子どもたちが親しむ。
市民まつりなど	小平にはおまつりが多い。近隣で開催され、市民が参加しやすい。

### (3) 仮説3 個の学びと対話的協働的な学びとの融合

「生活ひろば」における交流や協働、さまざまな表現と対話を通して、個の学びと、同学年や異学年の仲間を交えた対話的協働的な学びを融合させ、探究を深化させることができる。

### (4) 仮説4 「探究」の自律的深化による育ち

「探究」を自律的に深化させることにより、事物や事象への関わり方に発達がみられ、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力が育まれる。

## 4 教育課程の特例

小学校 1～2 年生において、週 5 時間の「生活ひろば」を教科として新設した。

従来の教育課程のうち、以下の時数をこの新教科「生活ひろば」に充当させた。

- ①生活科(週 3 時間)の全時数：年間第 1 学年 102 時間、第 2 学年 105 時間
- ②図工科(週 2 時間)のうち週 1 時間：年間第 1 学年 34 時間、第 2 学年 35 時間
- ③国語科(週 9 時間)のうち一部：年間第 1 学年 30 時間、第 2 学年 30 時間
- ④音楽科(週 2 時間)のうち一部：年間第 1 学年 4 時間、第 2 学年 5 時間

以上より、新教科「生活ひろば」は週 5 時間、年間第 1 学年 170 時間、第 2 学年 175 時間とした。

## 5 教育課程の編成

教育課程の編成にあたり「要素」「分野」「期」「テーマ」を設定し、幼小間の学びの連続性を図った。

### (1) 要素 (コンセプト)

要素として、幼稚園、小学校共通で〈生活発見〉〈生活探究〉〈生活交流〉を設定した(表 2)。

#### ①生活発見

自らの生活を見つめ直し、気付いたことや不思議さを感じたことから、素朴な疑問を出し合い、「知りたい」「やってみたい」問題を発見する。言い換えれば、問題を発見することを通して、自らのふだんの生活は自明のことではなく、園・学校や地域、家庭の仕組みのなかで導かれているのだと、「生活」を発見することでもある。5 歳児においては「なんでかな、ふしぎだな」、1 年生と 2 年生においては「〇〇ってなあに？」を導入句として、事物や事象への興味や関心、理解を深めていく。

#### ②生活探究

〈生活発見〉で見つけた問題について、解決を試みることを重ね、生活における事物や事象の仕組みや構造について探究を深めていく。〈生活探究〉は「生活ひろば」において、問題解決過程の中心に位置づく。5 歳児においては「どうなるのかな、だからかな」、1 年生と 2 年生においては

「〇〇をしらべよう」を導入句として問題解決を促し、事物や事象の仕組みや構造をより深く探究することを推進する。

### ③生活交流

生活の異なる場を交流させ、生活にはさまざまな局面があることや多様な価値観に基づいていることを理解し、刺激を受けたことを自らの生活に取り入れたり、誰かの生活に役立てようとしたりする。〈生活交流〉には、「自らの異なる生活の場を交流させること」と、「他者の生活と自分の生活を交流させること」の二つの側面がある。5歳児においては「やってみよう、おしえてもらおう」、1年生においては「〇〇をおしえてもらおう」、2年生においては「〇〇をしょうかいしよう」を導入句として、交流を促し、探究の成果を共有することを推進する。

以上の〈生活発見〉〈生活探究〉〈生活交流〉は、〈生活探究〉を中心にしながら相互に関連付けることによって、自らの生活の創造に向かう。生活のなかから生じた疑問は、生活の環境や諸資源などを活用しながら問題解決や探究を進め、その成果を交流させて、改めて自らや社会の生活を見つめ直す。実践においては、この循環をマネジメントすることを心がける必要があるだろう。

## (2) 分野

科学的認識と社会的認識の均衡を考慮し、活動分野を設定した(表3-1～表3-3)。

### ①自然

#### 1) 植物

植物の観察や採集、野菜や草花の栽培を通して、植物の特徴や生育の場所や条件、植物の変化や生長の様子について理解し、探究を深める分野である。栽培の場合、収穫やその後の取り扱い、作物の加工、調理等を含む。幼稚園では、4歳児が大豆の栽培と収穫を、5歳児が大豆を用いた味噌づくりを行うことを含む。小学校では、1年生が小麦の種まきと栽培を、2年生が小麦の栽培と収穫、加工、調理等を行うことを含む。

#### 2) 生き物

季節の生き物の観察や採集、飼育を通して、その特徴、変化や成長の様子、生き物の生息状況、飼育の条件などについて理解し、探究を深める分野である。幼児教育において飼育体験は重要であるが、生き物の採集に偶然性が高く、また、生き物によっては教師の介入が必要となるため、飼育に関する探究を教育課程として計画することが難しく、「生き物」を「生活ひろば」の活動分野には含めない。小学校では、1年生、2年生とも「生き物」を活動分野とする。

### ②制作

自然や身近にあるものを利用して、特徴を捉えて工夫してつくって遊び、仕組みや機能を理解し、探究を深める学習分野である。幼稚園、小学校に共通して設定する。

### ③社会創造

園内・校内の同学年や異学年の友達と交流する場を創り出したり、家庭や地域の生活に触れて生活世界を園や学校で再現したりして、人と関わることのよさや社会生活について探究を深める学習分野である。幼稚園、小学校に共通して設定する。

## (3) 期

活動の長期的連続性と、季節の変化を考慮し、期については、幼稚園、小学校とも共通に、「春」「夏」「秋」「冬」とした。

## (4) テーマ

本教育課程では、学習活動のまとまりについて「単元」に代わり、「テーマ」を用いることとし

た。このカリキュラムでは、5歳児から2年生まで、学年を超えて内容の連続性と相互の関連性をもたせていること、それは子どもにとっては過去の経験と接合させながら学びを進め、探究に至ること、学年に限っても学期を超えて長期的な活動となること、生活の問いに基づきゆるやかな開始と開放的な終結となること、などから、生活経験に基づく長期に渡る教育課程として、子どもが活動や学びの連続性を意識できるように「テーマ」を採用した。いわば、長期のテーマ学習として、教育課程を構想した。

表2 幼小一体的な教育課程「生活ひろば」の構成

	生活発見	生活探究	生活交流
4歳児からの接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びにおいて、興味や関心のあることと向き合い、時間をかけて活動を展開する。自らの生活に栽培や飼育、簡単な当番活動を位置づけ、同年齢や異年齢の仲間に自分の考えを話し、仲間の意見と交流させながら、試行錯誤と問題解決を重ねていく。</li> </ul>		
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びにおいて、気付いたことや不思議に感じたこと、関心のあることをもちより、疑問を出しあう。</li> </ul> <p><b>なんでかな、ふしぎだな</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*色はどうしてかわるのかな</li> <li>*食べ物はどうしておいしくなるのかな</li> <li>*どんなお店があるのかな、こんなお店があったらいいな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びにおいて、仲間とめあてを共有し、問題やうまくいかないことについて考えを交流させ、試行錯誤しながら、新たな気付きを得て、変化を共有し、充実感を味わう。</li> </ul> <p><b>どうなるのかな、だからかな</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*布を染めてみよう</li> <li>*大豆を畑で育てよう</li> <li>*どうやったら本物らしくできるかな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活との関連を基に、生活上の様々な工夫に触れ、関心をもつ。</li> <li>地域の文化や自然に出会い、興味や関心をもって関わり、親しむ。</li> <li>異年齢や小学生、地域の人と交流し、刺激を受けたことを自らの生活や遊びに取り入れる。</li> </ul> <p><b>やってみよう、おしえてもらおう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*染め物サークルに参加するおうちの人に聞いてみよう</li> <li>*大豆を収穫して味噌や醤油をつくらせてみよう</li> <li>*お店をひらいてお客さんをもてなそう</li> </ul>
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に学校や通学路の不思議から、問題を発見する活動につなげる。</li> </ul> <p><b>〇〇ってなあに？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*「季節」ってなあに？</li> <li>*「花のレストラン」ってなあに？</li> <li>*「腐葉土」ってなあに？</li> <li>*「小平糰うどん」ってなあに？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査活動からできそうなことを取り入れ、楽しみながらトライ&amp;チャレンジする活動を行う。</li> </ul> <p><b>〇〇をしらべよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*生き物を調べよう</li> <li>*植物を調べよう</li> <li>*動くしくみを調べよう</li> <li>*音のしくみを調べよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者（幼稚園児や地域の人など）と交流して、探究によって得られた成果を表現し提供する活動を行う。</li> </ul> <p><b>〇〇をおしえてもらおう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*ヒミツを紹介しよう</li> <li>*郵便局を紹介しよう</li> <li>*昔遊びを紹介しよう</li> </ul>
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に通学路や遊び場の不思議から、問題を発見する活動につなげる。</li> </ul> <p><b>〇〇ってなあに？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*「季節」ってなあに？</li> <li>*「花のレストラン」ってなあに？</li> <li>*「腐葉土」ってなあに？</li> <li>*「小平糰うどん」ってなあに？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査活動から、自分や誰かにとって役立つようなことを取り入れ、楽しみながらトライ&amp;チャレンジする活動を行う。</li> </ul> <p><b>〇〇をしらべよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*生き物を調べよう</li> <li>*植物を調べよう</li> <li>*動くしくみを調べよう</li> <li>*音のしくみを調べよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈生活探究〉によって得られた成果を、他者（幼稚園児や地域の人など）に表現し提供する活動を行うとともに、交流を通して〈生活探究〉を深める。</li> </ul> <p><b>〇〇をしようかしよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*ヒミツを紹介しよう</li> <li>*郵便局を紹介しよう</li> <li>*昔遊びを紹介しよう</li> </ul>
3年生への接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なにこれ」「ふしぎ」の感覚を大切にし、問題発見力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的、理科的なものの見方・考え方を活用して問題解決を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Show&amp;TellやICTなどを活用し、表現活動を充実させる。</li> </ul>

表3-1 「生活ひろば」の年間教育課程（5歳児）

	春（4～6月）	夏（7～9月）	秋（10～12月）	冬（1～3月）		
自然（植物）	<p><b>野菜や草花の栽培、抽出、収穫、調理</b></p> <p>◇グループごとに育てたい野菜を相談し、苗植えや種まきをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑を観察し、生長における変化に気付く。〈発見〉</li> <li>・野菜や花の生長に問題があるときには、原因や対策を考え、調べたり、予想を立てて試したり、結果を振り返ったりする。〈探究〉</li> <li>・必要な知識や道具があるときには、家庭でも調べたり、地域の専門家にお話を伺ったりする。〈交流〉</li> </ul>		<p><b>野菜の収穫、調理</b></p> <p>◇収穫した野菜の食べ方を考え、調理して味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育てた野菜の食べ方を相談し、調理方法や必要な物を考えたり調べたりする。〈発見〉</li> <li>・調理中の変化や、味、におい、触感などに気づき、味わうことで収穫できた喜びを感じる。〈発見〉</li> <li>・実際に調理してみて、うまくいかなかったことや、さらにやってみたいことを試す。〈探究〉</li> </ul>		<p><b>「わくわくうどん」をつくって食べよう</b></p> <p>◇幼稚園でつくった味噌と小学校でつくったうどんを持ち寄り、「わくわくうどん」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち寄った味噌を使って、つゆを試作し、味を決める。〈探究〉</li> <li>・幼稚園の味噌からつくったつゆと小学校のうどんを合わせて、わくわくうどんを完成させる。できたうどんを味わい、気付いたことを出し合う。〈探究〉</li> <li>・お世話になった地域の人などを招いて、会食する。〈交流〉</li> </ul>	
	制作	<p><b>味噌づくり</b></p> <p>◇昨年度育てた大豆を使用し、「わくわくうどん」づくりに向けて、味噌づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・味噌のつくり方を調べる。〈発見〉</li> <li>・家庭や地域の方につくり方を教えてもらう。〈交流〉</li> <li>・味噌づくりを通して、実際に味噌ができていく過程を知り、大豆からの変化を味わう。〈探究〉</li> </ul>		<p><b>染め物</b></p> <p>◇色合いや濃度を探索しながら、染め物を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模様や色の表れ方を予想しながら、会食で使用するランチョンマットや生活に必要なものをつくる。〈探究〉</li> </ul>		
社会創造		<p><b>お店屋さん</b></p> <p>◇子どもたちの日常的な興味から、品物を制作し、お店を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形、感触、機能など、そのものらしさを捉え、素材やつくり方を考えながら制作する。〈探究〉</li> <li>・実際のお店を見学し、陳列方法や開店に必要なものに気付く。〈交流〉</li> <li>・お客さんを想定しながら、開店準備をする。〈探究〉</li> <li>・4歳児を迎え、お客さんの気持ちを理解して、品物の説明や販売を行う。〈交流〉</li> </ul>		<p><b>香り・色水遊び</b></p> <p>◇草花や実などをすりつぶし、色の出方や香りの変化に気づき、遊びを展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草花を採取し、色の抽出方法を模索し、色の混ざり合いや香りの変化に気付く。〈発見〉</li> <li>・ジュース屋や染め物など、自分たちのやりたいことが表現できる方法を考え、くり返し試しながら、実現する。模様の描写や色の抽出について、試行錯誤しながら、イメージしたものに近づける。〈探究〉</li> </ul>		<p><b>子どもがつくるまち</b></p> <p>◇個々の制作物を注視したり、まち全体を俯瞰したりしながら、興味のあるものの特徴を捉えたり、仕組みや機能に着目したりして、建物やまちに必要なものを制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電車など、自分たちの興味のあるものを図鑑で調べ、気づきや知識を出しあいながら、制作を行う。〈発見〉</li> <li>・実際に実物を見たり、話を聞いたりできる場所に行き、見識を深める。〈交流〉</li> <li>・気付いた特徴を表すために素材や方法を工夫したり、仕組みや機能を理解し、再現できるように考えたりする。〈探究〉</li> </ul>
	<p><b>白梅郵便局</b></p> <p>◇手紙やはがきなど郵便に必要な材料を制作し、自作のポストを介して園内で集配と販売を行う白梅郵便局を展開する。実際の郵便に触れたり、小学生と手紙の交流をしたりして、社会の仕組みについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポストにはさまざまな形や色のポストがあり、集配の仕事があって手紙が届くことに気付く。〈発見〉</li> <li>・伝えたいことや知りたいことを手紙に書き、友達や小学生とやりとりをする。〈交流〉</li> <li>・実際の郵便で必要なきまりに気づき、郵便の仕組みを理解し、よりよいかたちで再現できるようにする。〈探究〉</li> </ul>					

表 3-2 「生活ひろば」の年間教育課程（1年生）

		学校だいすき 春	学校だいすき 夏	学校だいすき 秋	学校だいすき 冬
自然	植物	ガーデニング			
		<p>「花のレストラン」ってなあに</p> <p>◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>	<p>「花のレストラン」ってなあに</p> <p>◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>	<p>「腐葉土」ってなあに</p> <p>◇腐葉土づくりを通して、植物の特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>	<p>「糧うどん」ってなあに</p> <p>◇小平市のうどん文化を知り、小麦栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>
	生き物	わくわく生き物博士			
		<p>春の生き物を調べよう</p> <p>◇春の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>夏の生き物を調べよう</p> <p>◇夏の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>秋の生き物を調べよう</p> <p>◇秋の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>冬の生き物を調べよう</p> <p>◇冬の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>
制作		花・遊・美			
		<p>春の植物を調べよう</p> <p>◇身近な春の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>夏の植物を調べよう</p> <p>◇身近な夏の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>秋の植物を調べよう</p> <p>◇身近な秋の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>冬の植物を調べよう</p> <p>◇身近な冬の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>
		おもちゃラボ			
			<p>動くしくみを調べよう</p> <p>◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉</p>	<p>音のしくみを調べよう</p> <p>◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉</p>	
社会創造		<p>学校探検隊</p> <p>ヒミツを紹介しよう</p> <p>◇2年生から学校の生活や出来事を聞き、2年生や友達と伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>	<p>一小郵便局</p> <p>郵便局を紹介しよう</p> <p>◇小平市の丸ポストを知り、2年生や友達と郵便遊びを行い、伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>	<p>一小祭り</p> <p>昔遊びを紹介しよう</p> <p>◇2年生のお祭りに参加し、昔遊びを通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>	<p>一小祭り</p> <p>昔遊びを紹介しよう</p> <p>◇幼稚園児を招いて、昔遊びを紹介する活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>

表 3-3 「生活ひろば」の年間教育課程（2年生）

		小平だいすき 春	小平だいすき 夏	小平だいすき 秋	小平だいすき 冬
自然	植物	ガーデニング			
		<p>「バタフライガーデン」ってなあに</p> <p>◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>	<p>「糧うどん」ってなあに</p> <p>◇小麦栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>	<p>「腐葉土」ってなあに</p> <p>◇腐葉土づくりを通して、植物の特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>	<p>「バタフライガーデン」ってなあに</p> <p>◇花や野菜の栽培を通して、特徴、育つ場所、変化や生長の様子に気付く学習活動。〈発見〉</p>
自然	生き物	わくわく生き物博士			
		<p>春の生き物を調べよう</p> <p>◇春の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>夏の生き物を調べよう</p> <p>◇夏の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>秋の生き物を調べよう</p> <p>◇秋の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>冬の生き物を調べよう</p> <p>◇冬の生き物の観察、採集、飼育を通して、特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付く学習活動。〈探究〉</p>
制作		花・遊・美			
		<p>春の植物を調べよう</p> <p>◇身近な春の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>夏の植物を調べよう</p> <p>◇身近な夏の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>秋の植物を調べよう</p> <p>◇身近な秋の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>	<p>冬の植物を調べよう</p> <p>◇身近な秋の植物を利用して染め物で遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付く学習活動。〈探究〉</p>
制作		おもちゃラボ			
			<p>動くしくみを調べよう</p> <p>◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉</p>	<p>音のしくみを調べよう</p> <p>◇自然や身近にある物を利用して、工夫してつくって遊ぶ学習活動。〈探究〉</p>	
社会創造		学校探検隊	一小郵便局	一小祭り	一小郵便局
		<p>ヒミツを紹介しよう</p> <p>◇学校の生活や出来事を1年生や友達と伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>	<p>郵便局を紹介しよう</p> <p>◇1年生や友達と郵便遊びを行い、伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>	<p>昔遊びを紹介しよう</p> <p>◇1年生をお祭りに招待し、昔遊びなどを通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>	<p>郵便局を紹介しよう</p> <p>◇幼稚園児と郵便遊びを行い、伝えあう活動を通して、人と関わることのよさや楽しさが分かる学習活動。〈交流〉</p>

### (5) テーマ展開と時数配分

各テーマを展開させる時期と時数配分（小学校）は、表4-1～表4-3に示す通りである。教育課程では、テーマが学期を超えて長期に扱われること、学年間で関連性を持たせていること、そして、複数のテーマが並行して進行し、月や学期を超えて繰り返し経験すること、テーマ間の連携があり、分野を超えて一つの経験となること、を特徴としている。

表4-1 テーマ展開（5歳児）

※丸数字：実施月

	春			夏		秋			冬			
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
自然 (植物)	野菜・草花の栽培・採集											
	⑤大豆種まき			⑦枝豆収穫		⑫大豆収穫						
	味噌造り・調理											
	⑤味噌仕込み ⑥味噌汁の描画			⑨味噌汁づくり						②うどん交流		③たらしもち うどんづくり
制作	色水遊び 野菜や草花から色や香りを抽出する											
	⑤染め物 ⑥香りづくり 草木染めのこいのぼり						⑩ランチョンマットづくり					
	制作											
社会創造	⑥お店屋さん						⑪子どもが つくるまち			②一小祭り交流		
							⑪秋祭り交流			②梅っこ フェスティバル		
	白梅郵便局 手紙を通しての交流・郵便ごっこ											
⑤手紙をかく ⑥はがきづくり			⑥手紙交流			⑩年賀状づくり			②お仕事体験			

表4-2 テーマ展開と時数配分（1年生、170時間）

期	学校だいすき 春			学校だいすき 夏		学校だいすき 秋			学校だいすき 冬				
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
時間数	13	18	19	10	16	20	18	16	14	14	12		
自然	植物 ガーデニング（花・麦・腐葉土）35時間												
	2	4	2	2	4	4	2	4	5	2	4		
自然	生き物博士（春・夏・秋・冬）42時間												
	4	6	2	4	4	4	2	4	4	4	4		
制作	花・遊・美 29時間												
	4	4	4	—	2	4	5	6	—	—	—		
	おもちゃラボ 13時間												
社会創造	学校探検隊（春・夏・秋・冬）29時間												
	3	4	4	4	2	2	2	2	—	2	4		
					秋祭り 11時間			一小祭り 11時間					
—			—			4			—			5	
—			—			—			7			—	
—			—			—			—			5	
—			—			—			—			6	
—			—			—			—			—	

表4-3 テーマ展開と時数配分（2年生、175時間）

期	小平だいすき 春			小平だいすき 夏		小平だいすき 秋			小平だいすき 冬		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時間数	18	18	19	10	16	20	18	16	14	14	12
自然	ガーデニング（花・麦・腐葉土）35時間										
	2	4	2	2	4	4	2	4	5	2	4
植物	生き物博士（春・夏・秋・冬）42時間										
	4	6	2	4	4	4	2	4	4	4	4
制作	花・遊・美 29時間										
	4	4	4	—	2	4	5	6	—	—	—
	おもちゃラボ 14時間										
社会創造	学校探検隊（春・夏・秋・冬）30時間										
	8	4	2	2	2	2	2	2	—	2	4
	一小郵便局 14時間										
一小祭り 11時間											
	—	—	2	2	4	6	—	—	5	6	—

### （6）横の展開と縦の展開

実践にあたっては、教育課程における「横」の展開と、「縦」の展開の構造化を図った。

「横」の展開とは、学年で年度を通して取り組む際の時間的展開である。例えば、5歳児の制作分野において、春期に「お店屋さん」、秋期に「子どもがつくるまち」、冬期に「梅っこフェスティバル」というテーマがある（図2）。「お店屋さん」では、かけもち可能な緩やかな小集団に参加し、「商品」制作と店づくりで協働し、工夫をこらす。その際、子どもたちの主眼は、いかによくつくるか、よく売るか、という店主の立場にある。それが秋期の「子どもがつくるまち」では、「わが家」の制作に留まらず、「まち」を俯瞰して、商店や公園、幼稚園、高尾山など自らの生活で体験した場所を配置し、道を走らす。それぞれの場所には、手のひらサイズの自作の「人」が出入りし、そこでは虫瞰的な遊びが展開される。冬季の「梅っこフェスティバル」では、4歳児が何をしてもらえば喜ぶか、という客の目線にたって、出店やアトラクションの準備を行っている。

このように、長期的に取り組むテーマを年間にいくつか展開させることで、制作の技術のみならず、子どもの社会を自ら創造するための探究を深めている。



図2 5歳児の制作分野における「横」の展開と「縦」の展開

「縦」の展開とは、一つには、異学年による間接的直接的な交流によるもので、交流によって刺激を受け、新たな視点や方策を持ち帰り、それをその後の活動に活かすような展開である。例えば、前掲の5歳児の制作では、6月にお店屋さん、11月に子どもがつくるまち、2月に梅っこフェスティバルと「横」展開としている。第2年次では、11月に1年生による「秋祭り」で、2月には2年生による「一小祭り」で小学生と交流を行った。つまり、「縦」の展開としては、表2に示すように、5歳児は自分たちで「子どもがつくるまち」の経験をベースに、1年生と秋祭りで交流して、人を楽しませる工夫などそこでの刺激を持ち帰り、3学期の梅っこフェスティバルの計画に臨んだ。そして、梅っこフェスティバルの準備が始まった頃、2年生と交流し、こまやかな配慮あふれるホスピタリティを持ち帰り、今度は、4歳児に向けて、自分たちがそれを実施しようとしていた。

二つには、学年進行による経験の深化や多様化などを指し、5歳児から2年生の3年間において、関与の仕方を変えながら共通の題材に関わる展開を指す。以下の「わくわくうどんをつくって食べよう」の例は、それぞれの学年での子どもなりの取組や活動に基づき、お互いに学びをもち寄って、うどんという一品をつくりあげ交流するものである。すなわち、幼児は4歳児で枝豆を栽培し大豆を収穫し、5歳児で味噌をつくり、汁を調理し、1年生は麦をまき栽培し、2年生で収穫し粉を挽いてうどんをつくり、持ち寄って一つのごちそうとし、共食するものである。小平には伝統食として糧うどんがあり、土地柄、水田ではなく畑での作物栽培が中心であったことから、この一連の活動を考案している。

第3年次では、2年生は12月に自分たちでうどんづくりを体験し、1月に5歳児を迎えて「わくわくうどん」の交流を行った。5歳児は自らつくった味噌を持ち込み、2年生はうどんづくりを指南するなど、これまでの学びを交流させ、共に小平の郷土料理「糧うどん」をつくり、共においしい一杯を堪能した。

なお、本研究開発において「わくわくうどんをつくって食べよう」という活動は象徴的な実践になると考えている。個の問いや課題を他者に拓き、他者との対話や協働から生まれるアイデアや課題を活動において再度試し、さらにその成果が協働にもち込まれる。この循環的な過程において、個の学びと対話的協働的な学びが融合され、その子なりの学びとなるだろう。

#### ◇活動例「わくわくうどんをつくって食べよう」

小学生は小麦を種から栽培、収穫し、製粉してうどんをつくる。4歳児で大豆を栽培、収穫し、5歳児で味噌や醤油をつくる。小学生はうどんを、5歳児はつゆをつくって持ち寄り、うどんを味わう。おいしいうどんになるのかどうか、わくわくしながら栽培や調理を行い、その成果を楽しむ。

##### \* 1年生

- ・給食に小平糧うどんが出されたことをきっかけに、色や食感、味わい方などの特徴に疑問をもつ。小平糧うどんのひみつを保存普及会の人や地域のうどんづくり名人に教えてもらう。
- ・うどんが小麦粉からできていることを知る。自分たちでうどんをつくりたいと願い、そのために、秋に小麦の種をまき、栽培する。よく育つにはたい肥や腐葉土などが必要であることを知り、学校の落ち葉などを利用して自分たちで腐葉土をつくる。

##### \* 2年生

- ・自分たちで栽培した小麦を1学期の中頃に収穫する。腐葉土は幼稚園児や他学年、地域の人にも配布して役立ててもらおう。小麦粉への加工の仕方を教えてもらい、脱穀して石臼で製粉する。小平の昔の暮らしに触れる。
- ・おいしいうどんのつくり方を、うどんづくり名人に教えてもらう。1年生にも協力してもらい、うどんづくりに挑戦する。

##### \* 5歳児

- ・食べ物のおいしさのひみつに関心をもち、味噌や醤油などの調味料の役割を知る。味噌や醤油の原材料が大豆であることを知り、本当に味噌や醤油になるのか、大豆を育てて試してみ

ることにする。大豆の種まきと栽培は4歳児との交流活動で行う。

- ・大豆の栽培の過程で、枝豆を収穫して食べ、枝豆と大豆の関係を知る。
- ・地域の味噌づくり名人に、味噌や醤油のつくり方を教わり、自分たちで仕込む。約半年後にできあがる。

**\*交流**

- ・小学生はうどんを、5歳児は味噌や醤油を持ち寄り、「わくわくうどん」を完成させる。お世話になった地域の人たちも交えて、おいしくいただく。

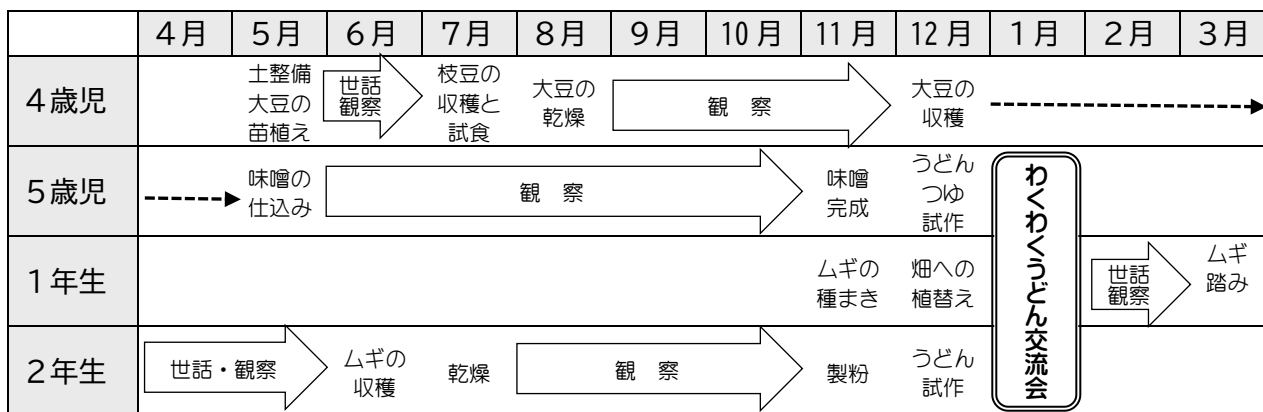


図3 「わくわくうどんをつくって食べよう」における「縦」の展開

## 6 学習環境と評価の工夫

### (1) 生活ひろばの教室 —— 子ども一人一人の探究を促す学習環境づくり (小学校)

生活ひろばの学びを授業時間外でも自由に行える場を提供すること、子どもの探究心、創造性、表現力を育むこと、異学年交流や地域との交流の場とすることを目的に、「生活ひろばの教室」を設置した。幼稚園に似たような環境があり、環境や学びの連続性を保障し、子どもの主体的な学びを促進する場として計画された (p.24 参照)。

生活ひろばの教室は「はてなコーナー (廊下)」「はてなコーナー (教室)」「わくわくほんだな」「お宝コーナー」「季節のコーナー」の五つのコーナーから構成される。休み時間等の授業時間外も利用可能であり、廃材や材料を自由に使い、制作や遊びに取り組むことが可能である。授業時間内に終わらなかった探究を続けることも可能である。教師やボランティアスタッフがサポートを行う。

子どもは授業で学んだことを活かし制作や遊びに取り組んだり、友達と協力して作品を作り、遊び方を工夫したりしていた。また、異学年の子どもと交流し、教え合い、学び合う様子が見られた。

### (2) 創造性を促進するルーブリックの可能性 (小学校)

#### ①ルーブリックの提示のタイミング

ルーブリックは評価の透明性を高めるツールである。評価の観点を明示することで、学習者が目標目標を理解しやすくなり、学習の見通しをもつことができる。一方で、評価基準を明確にすることが、学びの自由度や創造性を制限するのではないかという指摘もある。特に、予め決められた観点に従って学習を進めることが、子どもの主体的な発想を狭める可能性があると考えられている。

本研究では、ルーブリックを学習の終末の評価として提示するだけでなく、テーマの開始直後や授業の初めに提示する学習ツールとして活用することで、子どもの主体性や創造性を促進する可能性を検討している。学習の初めにルーブリックを提示することで、子どもは「1 学習の見通しをもつこと」「2 目標を意識して活動すること」「3 自分の学びを振り返ること」がしやすくなる。こ

のように、ルーブリックは単なる評価観点ではなく、学習の方向を示す道具として機能する。

## ②局面の限定

ルーブリックはテーマ全体ではなく、小テーマや特定の技能に焦点を当てることで、子どもが目標を具体的に理解しやすくなる。

## ③可測性の確保

評価項目は、子ども自身が達成度を判断できるよう、可測性を確保することが重要である。「数値化できる」「行動として観察できる」といった点に留意し、具体的な行動として示すことが望ましい。

## ④子どもの目線での設計

ルーブリックは、以下の6点に留意して設計することが肝要である。

すなわち、「分かりやすい言葉や絵による表現」「子ども自身の項目への納得の得やすさ」などにより目標についての理解を促すこと、「『自分にもできそうだ』という感覚の得やすさ」「驚きや楽しさを生む『wow!』的なカテゴリーの利用」などにより学習への意欲を高められること、「空欄の設定を通した、子どもと共に完成させる余地」や「個々の学びに応じる柔軟性の確保」など子ども自身による学びへの気付きを促すことである。

## ⑤その子だけのルーブリック

記述式の項目を設けることで、同じ課題であっても、異なる目標や成功観点を設定することができるようにする。これにより、子ども自身が評価の過程に主体的に関与できる。さらに、1年生は学びの視点を中心としたシンプルなルーブリックとし、2年生は記述欄を増やして「その子だけのルーブリック」にするなど、学年に応じてルーブリックの活用を段階的に発展させ、子どもが評価に関わる度合いを高めていくことを行っている。

## (3) 探究ドキュメンテーション (幼稚園)

本研究開発では、園児の探究の過程について、自由遊びにおける個別の遊びの様子と、同年齢での協働や異年齢での協働、クラスタイムへの参加など、一連の取組を記録し、子どもの「探究」という事象をくみとる「探究ドキュメンテーション」を作成している (p. 23 参照)。

探究ドキュメンテーションの作成は、子どもが対象とどのように向き合い、何を感じ、どのように考えたのかを可視化していく試みであり、子どもの探究や保育に関する評価を示すものである。

探究ドキュメンテーションは、それをもとに保育者間で保育の実際を振り返り、それまでの取組の事実や子どもの探究に関する評価を共有する。園内の保育カンファレンスにおいて、テーマや取組の変遷をどう捉えるか、問題解決はどのように連鎖しているか、学びの個性化がどのように表れているか、個別最適な学びと協働的な学びはどのように融合されているか、などを検討し、カリキュラム・マネジメントを行う。

## 7 「生活ひろば」の実践

自然(栽培)



### ガーデニング(冬)「糧うどんってなあに」

#### 1年生 植えた小麦を観察しよう

1年生が11月に小麦の種を蒔きました。小麦は何になるのかを知ると、驚く1年生。大きく育つことを楽しみに、タブレットで写真を撮り、小麦の成長をスライドにまとめています。



「どんどん大きくなるね！！」



「そろそろ麦踏みをするかな～」

#### 1年生 麦踏みをしよう

育っている麦を踏むことを聞くと「え～！！踏んで大丈夫なの？」と心配する1年生。踏むことで茎を強くし、根がしっかりと張っていくことを教わると、「大きくな～れ」と言いながら、麦を踏んでいました。



「大きく育ってね！！」



「強い小麦になってね～」



# 小麦からうどんへ

2年生 11月 脱穀作業



「わりばしを使うと簡単！」



「たくさん採れるね！」



「すりばちに小麦を入れて、棒でまわすと、粉になっていくよ！」



「とっても硬くて、潰すのが大変でしたが、楽しかったです！」

2年生12月 うどん作り体験会



「うどん名人の小野さんに教わろう！」



「こね方にもコツが必要です！！」



「頑張って踏むとこしがでるよ！」



「切る作業が一番、ドキドキしたよ！」



「みんなで頑張って作ったうどんは最高においしかったです！」  
「次は、この生地に幼稚園で作った味噌も加えて、もっとおいしく一緒に作るぞ！」





## 小麦と味噌で「うどんづくり」

2月、小学校を幼児が訪問し、2年生が栽培・収穫した小麦から作った小麦粉と、5歳児が栽培・収穫した大豆で仕込んだ味噌を持ち寄り、一緒にうどんづくりを行いました。

### 学びを共有する

体育館に集まると、7、8人のグループに分かれて自己紹介をしました。そこから小学生は小麦や糧うどんについて、園児は大豆や味噌について、学んだことを発表しました。



2年生がスライドで小麦と糧うどんについて発表



5歳児が紙芝居で大豆と味噌について発表

### 小麦と味噌を合わせて うどんをつくる

うどんづくりでは、2年生があらかじめ用意した生地に味噌を練り込み、生地を踏む作業を一緒に行いました。園児が作業しやすいように、2年生が説明したり、手本を見せたり、生地の入ったボウルや袋を押さえたりして優しくフォローしてくれる姿もあり、うどんづくりが進んでいきました。



生地に味噌を入れる



練り込む



5歳児の手助けをする2年生



生地を踏む

## 職人の技を見る

生地が出来上がったあとは、うどんづくりを教えてくださいました地域の職人さんに、生地の伸ばし方や切り方を実際に見せてもらいました。



職人さんがうどんを切る



映像で共有しながら見る

## 手作りうどんを味わう

味噌を溶いて汁をつくり、糧となる野菜を添えて、完成した糧うどんと一緒に味わいました。



味噌を溶く

いただきます！



糧となる野菜を添える



5歳児



2年生

食べ終わったあとに感想を発表したい人を募ると、多くの方が並びました。

## 子どもたちの感想

- ・ うどんと味噌が合体しておいしかった
- ・ 麺がもちもちでおいしかった
- ・ 足で踏むのが楽しかった
- ・ にんじんとか糧がおいしかった
- ・ 味噌の作り方を発表するのが楽しかった
- ・ めんとつゆがおいしかった
- ・ 一緒に作るのが楽しかった



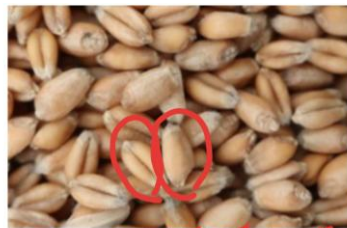
## うどん交流での発表 ①小麦のスライド

### 5歳児 発表 大豆の紙芝居

2月のうどんづくりの発表で、2年生は、小麦の成長や脱穀からうどん粉になるまでの過程について紹介をしました。写真を活用しながら種の特徴や発芽の様子、麦踏み、成長の過程、開花、黄金色に実る様子、脱穀の過程などをスライドで提示した。さらに、脱穀した麦がうどんの粉になることについても紹介し、栽培から食へとつながる一連の学びを共有した。

1しょうでそだてた

### こむぎについて



とてもちいさい  
おこめのかたち





## うどん交流での発表 ②大豆の紙芝居

### 5歳児 発表 大豆の紙芝居

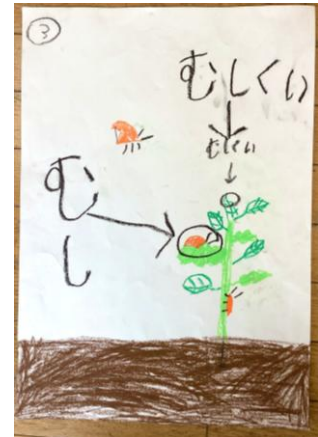
2月のうどんづくりの発表で、5歳児は、枝豆を栽培して大豆になる過程で気づいたことや、味噌の作り方を紹介しました。



①たねをぶらんたーにいれました。それはだいずのたねです。



②たねからめができました。みずをあげました。まいにちみずをあげるのはたいへんでした。



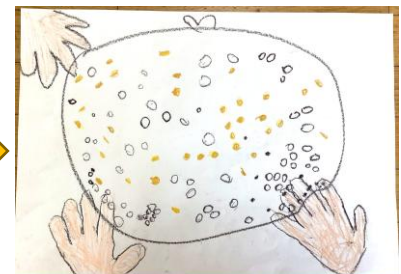
③むしがうじゃうじゃいてこまりました。むしははっぱとかえだまめのなかをたべました。



④やがてえだまめのみができました。てらすでかんそうさせてちやいろのだいずになりました。



⑤だいずをおなべのなかにいれてゆでました。そのだいずをふくろのなかにいれてつぶしました。



⑥しおこうじをばらばらにしてだいずとまぜました。



⑦だいずとしおこうじをまるめてみそだまをつくりました。



⑧みそだまをいれものに入れてくらいとこで5がつから11がつまでおきました。みそができました。



## 白梅郵便局

前年度の5歳児がしていた郵便ごっこでの交流経験を土台に、保育者からポストの制作を提案し、今年度の白梅郵便局が始まりました。

### 5歳児 5月上旬 ポストの設置

園内の門付近と3歳児、4歳児の保育室付近にポストを2つ用意し、誰でも投函できるようにと「誰でもポスト」が設置されました。



誰でもポストの設置



設置当初は大量の投函があり、集配や配達を楽しむ



盛り上がりがり落ち着き、配達したいのに投函されない！

### 5歳児 5月中旬 販売のはじまり

昨年度の5歳児の保育室でハガキを購入した経験のある4歳児が、突然ハガキを買いに来ました。今年度はそれまでハガキの販売はしていませんでしたが、ハガキや切手をつくっている子はいたので、それを販売することになりました。



「ハガキください」



販売する面白さに気付く

つくっていたハガキや切手

### 5歳児 6月 移動販売へ

切手制作が楽しくなり、売ることを意識しながら様々なデザインでつくっていくようになりました。しかし、販売を続けると「誰も買いにきてくれない」という状況に直面します。そこで5歳児が考えたのは、自分たちのクラスでお客さんを待つのではなく、3歳児、4歳児の保育室の近くで販売を行う「移動販売」です。



即席の販売カウンターを設営する



多くのお客さんが来て、あっという間に売れる



購入されたハガキが投函されることで、再び「集配・配達」の仕事が動き出し、意欲的に取り組んでいました。



## 手紙を通して交流する

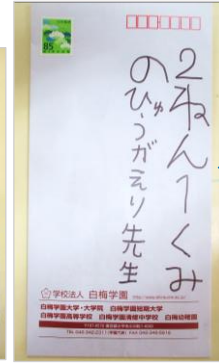
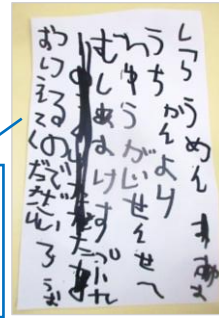
5歳児が取り組んでいた野菜の栽培では、葉が虫に食べられている様子を見て、子どもたちなりに対策を考えていました。そんな折に研究開発の会議の場で、「小学2年生が栽培のなかで虫よけスプレーを自作して使用したところ効果があった」という話を保育者が聞きました。その話を園児にも伝え、小学生に手紙を書いて虫よけスプレーの作り方を教えてもらおうと動き出しました。

5歳児 6月  
本物の手紙を書こう

郵便あそびを楽しんできた2人が立候補し、自作のハガキに文を書いています。予想以上に自由な形式で書いていました。

保育者はそのまま投函するか悩んだものの、宛先不明で戻ってくる可能性があるように、幼稚園の封筒に入れて出すことにしました。

住所がなく  
表面に用件  
などが記載  
されている



宛名が不完  
全で、名前  
も違ってい  
る

5歳児が書いた手紙と封筒

5歳児 6月  
戻ってきた手紙

数日後、宛先不明で戻ってくるだろうと予想していたハガキは、幼稚園宛として配達されてきました。そこで、「なんで戻ってきたのか」を子どもたちと話し合いましたが、なかなか芯をつく観点は出てきません。そこで、家庭にも協力をお願いすると、いくつかのアドバイスが持ち込まれました。

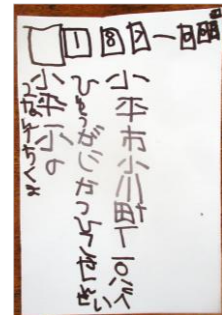
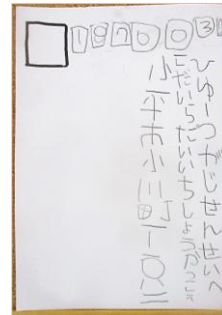
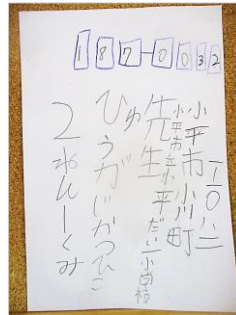
## 子どもから出てきた意見

- ・郵便番号が書いてない
- ・「～へ」がない
- ・子どもが書いたから
- ・切手が2個貼ってあるから(担当が間違えた)
- ・届けてくださいって、書いてない
- ・「2」と「1」が書いてあるから
- ・文字が読めなかったんじゃないか

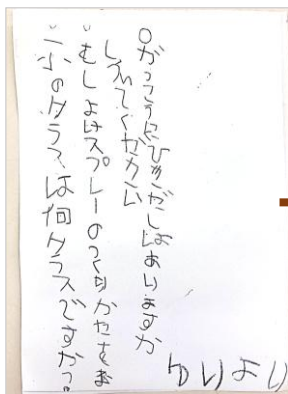
## 家庭からのアドバイス

- ・名前が違う
- ・郵便番号、住所がない
- ・学校名がない

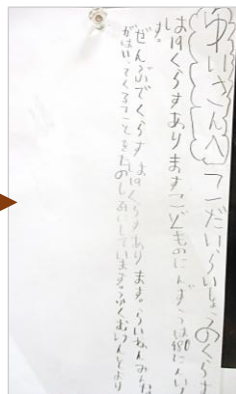
アドバイスをもとに、5人の子が2回目のハガキを書く

5歳児 7月  
小学生とのやりとり

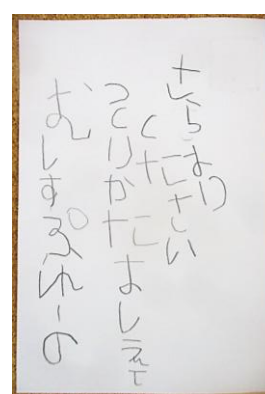
5通のハガキのうち、4通が小学校に届き、表明に宛名と本文、裏に住所を書いたハガキのみが行方不明となりました。ハガキには小学生に聞きたいことをそれぞれ書いていたので、その返信が後日、小学生から届きました。



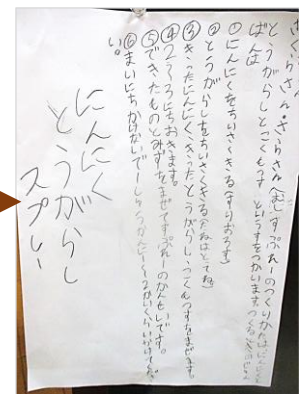
園児からの手紙①



小学生からの手紙①



園児からの手紙②



小学生からの手紙②

## 幼稚園 5歳児事例「棒取り勝負」

### 《取組の概要》

プレイデーの年長独自種目として、「棒とり勝負」を保育者から提案した。

ルール…各クラスの生活グループで4本ずつ「棒」を作り、グラウンドの中心に並べる。各クラス向かい合い、合図で棒を取りに行き、自分のクラスの陣地に入れる。陣地に入れた棒について、「①総数 ②総重量 ③全てを繋げた長さ」の3部門で勝負する。棒の長さはラップの芯の長さ以上とし、一度に持ち運べる棒の数は一本までとする。

棒の作り方はクラスごとに特徴が見られ、たか1組は長さを重視したもの、たか2組は重さを重視したものが多く作られた。紙管や空き箱をベースに水や砂、石、湿らせた砂、ペットボトルに入れた水など、棒がより重くなるような素材を見つけ、仲間とアイデアを出し合いながら作っていく姿が見られた。棒の重さについてはあらかじめ子どもと一緒に秤を使って重さを調べ、棒に記した。各クラスで棒の準備が出来上がった頃、園庭にて初めての対戦を行った。

EP1 棒の選び方が変わる	9月	生活発見・生活交流
<p>競技を始めて間もない頃は、目についた棒に向かって一直線に走り、自分のクラスの陣地に運ぶとまた次の棒へとすぐに手を出していく姿が多く見られた。何回か勝負をしていくうちに、「長さ」勝負の前にはクラスの仲間と「あの棒を最初に一緒に運ぼう」と話し合うなど、特定の棒を狙っていく姿になってきた。他と比べて特に長い棒、重い棒は子どもが数人集まっての引っ張り合いに発展することも増え、その時々勝負内容に応じた棒をなんとしてでも取りたいという気持ちを感じられた。</p> <p>また、「長さ」と「重さ」の勝負では全ての棒が各クラスの陣地に運ばれるまでの時間が勝負の回数を重ねるごとに伸びていった。棒が並ぶ場所に来ると、棒を手にするまでに少し悩むような姿が見られたことから、どの棒を選べば勝てるかを考えていたのだろうと思われる。</p>		
<p>たか2組に総数の勝負で負けてから、次の勝負に移る際に、たか1組のS児とF児が2人で怪訝そうな顔をしながら話し合っていた。保育者が「何かあった？」と尋ねると、「あの棒が、たか2の方に近いんだよね」「すぐ取られちゃうからずるい」とのことだった。確かに、1つの棒が中心線からやや外れて、たか2組の近くに置かれていた。</p> <p>2人の意見をその場で2クラスに共有し、勝負が始まる前の棒の置き方をどうすれば良いか投げかけると「真ん中に揃える」との声が出てきた。それまで保育者たちがおおよそ中心に集まるように棒を並べていたが、以降子どもたち自身が1本ずつ棒の中心をグラウンドの中心線に合わせることとなった。</p> <p>勝負に負けると、何か有利な点が相手にあるのではないかと考えるようで、「中心線までの距離がたか2組の方が近いのではないか」といった意見も出てきていた。</p>		
EP3 より長くなる方法を考える	9月	生活発見・生活交流
<p>長さ勝負では、規定の線を出発点に各クラスが取った棒を子どもたち自身で全て繋げていく。競技を始めた当初は棒を並べることで自体に意識が向いていたが、回数を重ねるにつれ相手のクラスの棒がどこまで伸びてくるのか自分のクラスと比較しながら勝負の行方を楽しむ余裕が出てきた。</p> <p>真っ直ぐに棒を繋げていくたか2組と比べ、たか1組は一人ひとりが好きなように棒を繋げていくことでぐにゃぐにゃと全体が曲がっていた。たか1組が勝負に負けた際、保育者が「たか2組は真っ直ぐ繋げているね」と話したこともあり、A児が「真っ直ぐ並べないと負けるぞー！」とクラスに呼びかける中、棒が真っ直ぐに繋がるよう地道に並べ直したり子ども同士で「そこが曲がっているよ」と声をかけ合ったりする姿が見られていった。</p>		

### 《保育者の考察》

子どもたちの姿の変化から、勝負を重ねるごとに競技内容についての理解が深まっていったことを感じる。そうした一人ひとりの変化が、同じ目的に向かって仲間と力を合わせていくことにも繋がっていったと考えられる。ただ、EP3では全体を俯瞰して見る必要があり子どもにより理解度にかなり差があっただろう。重さ勝負ではあらかじめ棒に記した重さを保育者が電卓で足していく必要があり子ども自身の実感が伴いにくく、そもそも5歳児にとって「重さの総量」という感覚は高度だったことが考えられる。棒の長さが2メートルを超えるものがあり、安全面の観点から自由遊びの時間に子どもが自ら道具を取り出して遊べる環境をつくることができなかったことも反省として挙げられる。

小学校 生活ひろばの教室

「生活ひろば」の教室は、作品展示や装飾だけではなく児童の興味を引き出すきっかけとなる。自分の思いを表現したり、物の働きや仕組みを追究したりできるように環境を設定している。

①はてなコーナー（廊下）



児童の「〇〇ってなんだろう」を引き出し、自分で調べたり学んだりすることができるように、イラスト、写真、QRコード、触れる自然物記録カードを掲示している。

②わくわくほんだな

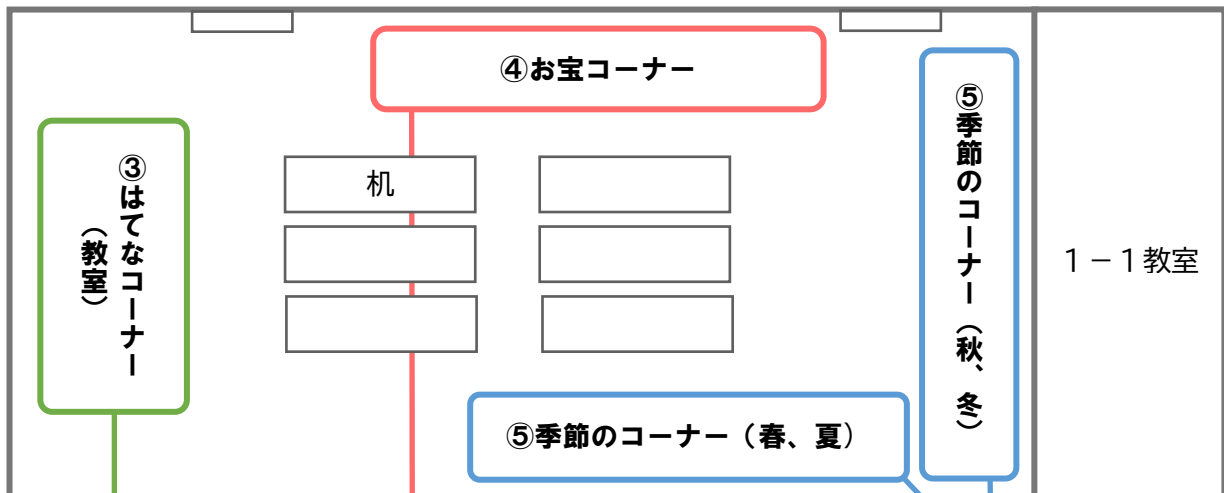


季節やその時の学習に合った本、図鑑を常設して、自由に見られるようにした。

廊下

①はてなコーナー（廊下）

②わくわくほんだな



③はてなコーナー（教室）



小麦の種、苗などを顕微鏡で観察できる場所を設けている。自然の不思議さに触れ「もっと〇〇したい」と探究する姿勢を育てる効果があった。

④お宝コーナー（工作道具、廃材など）



それぞれで遊ぶだけでなく、それらを自由に組み合わせて遊ぶことで、新しい発見を促している。日々の授業・休み時間・遊びの時間を過ごす学校活動の場で、児童の興味・関心に応じた環境作りを、幼稚園の様式から取り入れた。

⑤季節のコーナー



児童の「季節ってなんだろう」を引き出すため、イラスト、写真、季節に関する教科書の資料やQRコードを掲示している。自分から、タブレットで調べたり、学んだりするようになる効果があった。